公　　民　［ 倫理 ］　（100 点　50 分）

2017 年 5 月 26 日（金）1 限　実施
前期①考査
千葉県立長生高等学校　第 3 学年　全組
Edited by K.Kataoka

注　意　事　項

１　試験開始の合図があるまで，この問題冊子の中を見てはいけません。

２　解答用紙はマークシート式です。

３　受験番号はアルファベットを数字に直し，次の例のように５桁で記入してマークを忘れないこと。
例　３年Ｄ組１番　→　30401

４　試験中に解答用紙の不足，問題冊子の印刷不鮮明，ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は，手を挙げて監督者に知らせなさい。

５　試験終了後，問題冊子は持ち帰って復習をするとともに，答案返却の際に持参すること。

倫　　理

（解答番号［1］～［50］）

第１問　次の文章を読み下の問い（**問１～問５**）に答えよ。（配点　20）

(a)ギリシア神話は，紀元前８世紀の作品とされるホメロスの二大叙事詩 (b)『イリアス』と『オデュッセイア』，およびこれらとほぼ同時代の［　1　］の (c)『神統記』『仕事と日々』を嚆矢とする，現存の古代ギリシア文学に物語られ，美術に表されて伝えられた神話。古代ローマの神話も，ゼウスを［A］，ヘラを［B］，ヘルメスを［C］というように，神名をラテン語にかえた程度にすぎず，大部分はギリシア神話の翻案か，再説されたものである。

原古，混沌の深淵に王として最初に君臨したのは，天空ウラノスである。彼は母である大地［　2　］と結婚し，まずティタンという男女六柱ずつあわせて 12 柱の神々をもうけた。さらに二組の三つ子の怪物たちを生むが，ウラノスはこれら異形の子供たちを嫌って，生まれるとすぐに［　2　］の胎内に戻してしまった。怒った［　2　］は，アダマスという特別頑丈な金属を発生させて大きな鎌をつくり，ティタンたちの末弟クロノスにウラノスの性器を切り取らせた。

去勢された父にかわって天上の王位についたクロノスは，姉のレアと結婚し，炉の女神で処女神のヘスティアを生む。さらに，豊穣と農業の女神デメテル，末弟ゼウスの正妻となりオリンポスの女王の位につくヘラ，冥府の王となるハデス，海の王となる［　3　］が次々に誕生した。息子たちに王位を奪われるという預言を信じたクロノスは，これらの子供たちを次々に飲み込んでしまう。だが最後に生まれたゼウスだけは，［　2　］の助言によりクレタ島に隠されて育てられ，成長するとクロノスに吐き薬を飲ませて兄と姉たちを助けた。そして，兄たちと協力してオリンポス山上に集結し，クロノスとティタンたちに対し戦いを開始した。ティタノマキアとよばれるこの戦闘は 10 年間続いたが，やがてゼウスたちの勝利に終わり，クロノスらを地底の暗黒界タルタロスに幽閉してしまった。天上の王となったゼウスは，神々にそれぞれの地位と職分を定め，自らはまず知恵の女神メティスと結婚した。メティスは女児に恵まれるが，次に男児が生まれ，その子はゼウスの王位を奪うことになるとのガイアの預言から，ゼウスはすでに妊娠していたメティスを腹の中に飲み込んでしまう。ところが胎児はそのまま成育し，やがて甲冑を着けて槍と楯を持った［　4　］が，雄たけびをあげながらゼウスの頭のてっぺんから飛び出した。戦いの女神であり，技術万般の神でもある［　4　］はポリスの守護女神として名高い。

ゼウス，ヘラ，ポセイドン，ヘスティア，デメテル，アテネ，アポロン，アルテミス，アレス，ヘファイストス，ヘルメスとともに，オリンポス 12 神の一つに数えられる美と愛の女神［　5　］は，一伝によれば，ディオネ女神から生まれたゼウスの娘である。しかし，彼女はウラノスの娘で，海に投げ捨てられたウラノスの男根からわいて出た泡の中で生まれ，キプロス島に上陸してオリンポスに行き，神々の仲間に加わったとする伝えもある。ある神話によれば，彼女はヘファイストスと結婚させられたが，醜男の夫を嫌って，たくましいアレスと密通を重ねた。後の神話では，愛神エロスはこの不義によって生まれた［　5　］の息子とみなされるようになった。『神統記』などの古い神話でのエロスは，原初に［　6　］に続いて発生した最古の神格の一つであったが，［　5　］が誕生すると，自ら進んで彼女に随従するようになったとされている。

問１　文章中の空欄［　1　］～［　6　］に入れるのに最も適当なものを，次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

［1］
① ヘロドトス　② アガメムノン
③ メネラオス　④ ヘシオドス

［2］
① デメテル　② エリス
③ ガイア　④ テティス

［3］
① ポセイドン　② アリエル
③ トリトン　④ タイタニック

［4］
① テティス　② アフロディテ
③ アテナ　④ マルス

［5］
① アフロディテ　② アリアドネ
③ カサンドラ　④ アテナ

［6］
① ニュクス　② コスモス
③ シノイキスモス　④ カオス

問２　下線部(a)に関して，ギリシア語で神話を意味する語として適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［7］

① ΜΥΘΟΣ　② ΧΑΟΣ　③ ΙΧΘΥΣ　④ ΛΟΓΟΣ

問３　下線部(b) に関して，イリアスのストーリーとして最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［8］

① アキレスの友人パトロクロスは，アキレスの武具を借りて戦いに出て奮戦するが，やがて敵将ヘクトルのために殺される。
② 海の神ポセイドンの怒りをまねいて，その乗船が嵐にあったり，難破したりして，一〇年の苦難と数奇にみちた漂泊の旅を続ける。
③ パリスに対し，三女神は自分をいちばん美しいと判定してくれるなら，ヘラは世界の支配権，アテナは戦争における常勝，アフロディテは美女をあたえることを約束する。
④ 市民たちが寝静まった夜，木馬からオデュッセウスたちが出てきた。そして計画どおり松明でギリシア勢に合図を送り，彼らを引き入れ，トロイヤ市内をあばれまわった。

問４　下線部(c) に関して, 次の神統記の解説の中の空欄［　9　］に入る最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。［9］

神統記は第１に現宇宙の生成を問うこと，第 2 にゼウスを主神とするオリュンポスの神々が主権を獲得するにいたる経過を語ること，この２点を詩人の意図としてあげることができる。しかし，この２つの点は，オリュンポスの神々の統治者ゼウスを，現に見られる宇宙世界――秩序立てられ整序された世界という意味で，それは実質的に［　9　］と呼んでよいものである――の統治者，整序者とみることによって，ゼウスがその王権を新しく樹立する苦心の経過を語り，ゼウスの正しく善き王権を祝ぐことに集約還元される。

①　コスモス　　②　カオス　　③　ハルモニア　　④　カロース

問５　文中の空欄［A］,［B］,［C］入る語の組合せとして最も適当なものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。［10］

①［A］メルクリウス［B］ユノー　　［C］ユピテル
②［A］メルクリウス［B］ユピテル　　［C］ユノー
③［A］ユノー　　［B］ユピテル　　［C］メルクリウス
④［A］ユノー　　［B］メルクリウス［C］ユピテル
⑤［A］ユピテル　　［B］ユノー　　［C］メルクリウス
⑥［A］ユピテル　　［B］メルクリウス［C］ユノー

第２問　次の文章を読み，下の問い（**問１～問５**）に答えよ。（配点　24）

ギリシア思想は，キリスト教とならんで西洋思想を形成する二大潮流の一つである。ギリシア思想の特徴は，人間の理性や合理的な考え方を重んじるところにあるが，この合理主義は，自然の支配・利用という実践的性格の強い近代の合理主義とは異なり，純粋に知ることを目的とする［　11　］的性格の強いものであった。

ギリシア哲学は，紀元前６世紀ごろ，ギリシアの植民地 (a)イオニアに栄えた都市国家（ポリス）の生活を基盤として生まれた。当時の市民たちは，生活の労苦の大部分を奴隷の手にまかせ，自分たちは会話や討論に没頭する［　12　］をもつことができた。このような生活上のゆとりが，ギリシア哲学を形成する一つの要因であった。

このイオニアの地に，自然哲学者といわれる最初の哲学者たちが生まれた。それまでは，人間や世界の謎を知りたいとするギリシア人たちの欲求には，神話がこたえていた。そこでは，この世界の起源やそこで生じるさまざまな出来事が，神々の働きの結果として説明されていた。しかし，これら自然哲学者たちは，そうした神話的説明には満足せず，それを合理的思考によってとらえようとした。すなわち，人間のもつ［　13　］にもとづき，変化生成する一切の諸現象をあらゆる利害関心から切り離して冷静に見つめ，その根底にある不変の理法をとらえようとした。

その口火をきったのがタレスである。彼は天文学や幾何学の確立に大きな功績を残した自然研究者であったが，彼はそれだけにとどまらず，この自然全体の根本原理となるもの，つまり［　14　］を問題にした。タレスはそれを「水」としたが，これを受けてその後，万物の根源を問う思想家がつぎつぎとあらわれた。(b)ヘラクレイトスは「万物は流転する」と考え，その根源は「永遠に生きる［　15　］」であるとした。(c)ピタゴラスは，万物は数によって秩序づけられていると考え，その根源を「数」であるとした。［　16　］は土・水・空気・火という四元素から世界は成り立っているとした。

問１　文章中の空欄［　11　］～［　16　］に入れるのに最も適当なものを，次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

［11］
① ピュシス　② テオーリア
③ プラクシス　④ ノモス

［12］
① プシュケー　② スコレー
③ ニュクス　④ ヘメレー

［13］
① カロカガトス　② パトス
③ ミュトス　④ ロゴス

［14］
① アガペー　② アレテー
③ アルケー　④ アゴラ

［15］
① 火　② 空気
③ 無限　④ 土

［16］
① アナクサゴラス　② エンペドクレス
③ プロタゴラス　④ グレゴリオス

問２　下線部(a)に関して，イオニア地方のポリスとして最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［17］

① ミレトス　② スタゲイラ　③ スパルタ　④ エレア

問３　下線部(b) に関して，ヘーゲルはヘラクレイトスを弁証法の祖と呼んだが，弁証法についての次の記述の中の空欄［18］［19］に入るものとして最も適当なものを，次の①～④のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

弁証法とは一つの物事を対立した二つの規定の統一としてとらえる方法である。その対立の統一・矛盾を真かつ必然とみなすか，偶然かつ仮象とみなすか。運動の存在を主張することに含まれる「アキレスと亀」のような矛盾を指摘して，運動，変化，多様の存在を否認した［　18　］はアリストテレスによって弁証法の父とみなされた。しかし［　18　］の論理を認めて，なおかつ運動の存在を認める者は，「運動が矛盾の実在を証明している」と主張する。「万物は流転する」と語ったと多くの人がみなしてきたヘラクレイトスによれば，宇宙は絶えず消えつつ燃えているようなものである。静止して存続している物も，実際には二つの対立する力が均衡している不安定な状態である。近代においても，ヘーゲルは，存在を，絶えず新陳代謝によって，自己を外界に分解させながら，同時に自己を再生産し，同一を維持することだと把握している。対立する力の均衡という本質が，静止した存続という現象を支えている。テーゼを自己否定することでアンチテーゼとなり，さらに［　19　］することによってジンテーゼとなる。［　19　］は否定，保存，高揚という三義を含む。「肯定」と「否定」を「限定」へ，「ポロス（豊富）」と「ペニア（欠乏）」を「エロス（愛）」へ［　19　］し，統一するとき，肯定と否定，「ポロス」と「ペニア」という初めの対立項は，「限定」や「エロス」といった，より高次の総合概念の「契機」となる。個人は国家の契機であり，国家はより普遍的で，かつより具体的なもの，具体的普遍である。直接的，抽象的なものが具体的普遍に［　19　］される。

［18］
① アナクシマンドロス　② ゼノン
③ デモクリトス　④ アナクシメネス

［19］
① エピステーメー　② アントローポス
③ パラドクス　④ アウフヘーベン

問４　下線部(c) に関して，ピュタゴラス派の思想として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。［20］

①　ある罰のために魂は肉体のうちにつながれ，墓の中に埋められるように，その肉体の中に埋められている。
②　反対するものが協調する。そして異なる音から最も美しいハルモニエ（音調）が生じ，万物は争いによって生まれる。
③　デルフォイの神託とは何か。テトラクテュス（1,2,3,4 の合計からなる 10 の数）なり。それはすなわちハルモニアなり。このうちにセイレン（歌魔女）は住まう。
④　魂は不死であり，他の動物の中へ転生する。また，あるときに起こった事柄は一定の周期をへて再び起こるから新しいものは何一つない。

問５　次の自然哲学者たちの説として，最も適当なものを，下の①～⑤のうちからそれぞれ一つ選べ。
パルメニデス　［21］
アナクシメネス［22］

①　万物のもとのものは神的な空気で，この空気が希薄になると暖かい火が生じ，濃厚になると冷たい水や土や石などが生じるが，この希薄化と濃厚化を通じて生じたあらゆるものは，ふたたび空気へ返る。

②　「有るもの」があり「有らぬもの」はないという前提から，不生不滅，不可分，不変不動であって，完結した丸い球に似ている，といった「有るもの」の属性を引き出し，「有るもの」をわれわれに示す理性のみが真理をとらえ，「多」や生成や消滅や変化を信じさせる感覚は誤謬の源であると説く。

③　不可分割体は不生・不滅・無性質・な無数の物質単位であって，たえず運動し，その存在と運動の場所として〈空虚〉が前提とされる。無限の〈空虚〉の中では上も下もない。形・大きさ・配列・姿勢の違うこれら無数の原子の結合や分離の仕方によって，すべての感覚でとらえられる性質や生滅の現象が生じる。

④　宇宙には相反するものの争覇があって，あらゆるものはこうした争覇から生じる。したがって，「戦いは万物の父，万物の王」である。こうした争覇のうちに秘められた調和，「反発的調和」をみいだすことができる。これが世界を支配するロゴス（理法）である。

⑤　存在するもののもとのものは水でもなければ，普通に要素と呼ばれているいかなるものでもなくて，ある無規定的なる，無限なるものであり，そのものから全天界と天界の内における世界が生じる。ものが生成して存在を獲得するに至ったその基をなすものへと，そのものはまた必然の定めに従って消滅し去る。

第３問　次の文章を読み，下の問い（**問１～問５**）に答えよ。（配点　12）

ソフィストとは紀元前5世紀なかばごろから前4世紀にかけてギリシアで活躍した知識人たちの呼び名。多くは地方ポリスの出身者で，アテネほかのポリスを巡り，(a)弁論術を中心にさまざまの専門的知識を教授することを職業とした。アブデラのプロタゴラス，レオンティノイのゴルギアス，ケオスのプロディコス，エリスのヒッピアスらが有名である。

民主政のアテネでは，議会や法廷での弁論に優れていることが，政界での，つまり市民としての成功を意味した。ソフィストたちは時代の要求にこたえ，多額の謝礼と引き換えに富家の子弟に演説や論争の技術を授けた。講義は作文修辞の法のみならず，法律道徳論，文明論などの実質的思想にも及んだ。彼らが徹底的な形で示した言論の魅力は知的な青年たちをとりこにしたが，やがて保守的市民から過激な危険思想家と目されるようになる。ソクラテスの受難も，ソフィストと混同されて市民の反感を買ったことが一因であった。

ソフィストの思想のうち，プロタゴラスの「人間尺度命題」は［　A　］主義の表明とみられ，(b)ゴルギアスの「非存在の論」は知識否定論として，またトラシュマコスの「正義とは強者の利益なり」という説や，アンティフォン，ヒッピアスらによる［　23　］とピュシスの分離論は法や道徳に対する挑戦とみなすことができる。

哲学者プラトンはソフィストたちの名を冠した一連の作品を著し，ソクラテスと真理のために，これらの思想と対決しその虚偽を暴いた。個人と国家のために善を図り言論と行為とにもっとも有能有力な者となる道を教授するというのがソフィストたちの自称であったが，彼らが実際に教えたものは，［　B　］方法であり，事の真偽や正邪を問わず，ただ大衆を扇動して論敵に勝つための技術であった。

ソフィストの語はこうして，［　24　］の徒を意味することとなり［　24　］学派ともいわれた。ただし，事態の裏面をみるならば，ソクラテスとプラトンの哲学はソフィストたちの恐るべき論理から生まれたとも考えられ，その意味で彼らの哲学史上の意義がしばしば再評価される。

問１　文章中の空欄［　23　］～［　24　］に入れるのに最も適当なものを，次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

［23］
① ミュトス　② プラクシス
③ ノモス　④ ロゴス

［24］
① 貪食　② 詭弁
③ 学園　④ 逍遥

問２　下線部(a)に関して，弁論術を意味するギリシア語として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。

［25］
① テクネー　② ディアレクティケー
③ レトリケー　④ ビオス

問３　下線部(b) に関して，次のゴルギアスの言葉の中の空欄［26］に入る語として最も適当なものを下の①～④のうちから一つ選べ。

何ものもあらぬ。あるにしても何ものも知り得ない。たとい知り得るにしても，それを何人も他の人にあきらかにすることはできないであろう。それは事物が［　26　］ではないためであり，また何人も他の人と同一のものを心に考えぬからである。

①　永遠　　②　言葉　　③　神　　④　魂

問４　空欄［　A　］に入る語として**適当でないもの**を次の①～④のうちから一つ選べ。[27]

①　客観　　②　相対　　③　主観　　④　人間中心

問５　空欄［　B　］に入る文として最も適当なものを下の①～④のうちから一つ選べ。[28]

①　善についての知識を持っていながら自分の利益を追求する
②　善についての知識を持ちポリスのために奉仕する
③　善について無知であることを対話を通して自覚させる
④　善について無知でありながら優れた人間であると思わせる

第４問　次の文章を読み，下の問い（**問１～問６**）に答えよ。(配点　16)

ソクラテスが生涯アテネの人々に向かって説いたことは，「自分の［　29　］をできるだけすぐれたよいものにせよ」「ただ生きるのではなく善く生きよ」ということ，またそのために「［　29　］への配慮」をおこたるなということであった。

彼によれば，富，健康，名誉といった一般的によいといわれているものも，それ自体で幸福を生み出すのではなく，それらがすぐれたよい［　29　］によって生かされることによってはじめて幸福を生み出すのである。だから，自分の［　29　］のことは考えず，それ以外の富，健康，名誉などにのみ気を配ることは，「いちばん大切なことをいちばんそまつにし，つまらないことを不相応に大切にする」ことにほかならなかった。

ところで，善い生き方をするためには，(a)何が善であり何が悪であるか，何が美しくて何が醜いかについての正しい知を必要とする。したがってソクラテスは，この知を他のいかなる知にもまして重視した。真の知者とよべる者は，この知をもっている者でなければならなかった。

ソクラテスが相手に無知を自覚させるためにとった方法が［　30　］である。この方法は，まず相手に正しいと思うことをのべさせ，問答を通じてそれを吟味していく中で，相手にその考えの不十分さや誤りに気づかせ，より(b)根本的な知に到達させる方法のことである。

ソクラテスが善悪についての知を何より重視した背後には，つぎのような考えがある。［　29　］をすぐれたよいものにするためには，善悪についての知が必要であるということはもちろんであるが，逆にまた，善悪についての知を実現すれば［　29　］はすぐれたよいものとなる，つまり徳は実現されるという考えである。この「［　31　］」とする立場からすれば，悪と知りつつ悪をなす者はいない，悪をなすのはまだ本当の意味でそれが悪だということを知らないからだ，ということになる。わたしたちはこの考えのうちに，ソクラテスにおける(c)主知主義を，さらにはギリシア思想一般に通ずる主知主義をみることができる。

アテネがスパルタに敗れてから５年後，不安定な政局の中で，ソクラテスはソフィストや一部の政治家の反感を招き，裁判にかけられた。彼は告発が不当であることを主張したが，(d)ついに死刑を宣告された。

問１　文章中の空欄［　29　］～［　31　］に入れるのに最も適当なものを，次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

［29］
① アレテー　② プシュケー
③ ソフィア　④ アルケー

［30］
① メタピュシカ　② アウタルケイア
③ レトリケー　④ ディアレクティケー

［31］
① 徳は卓越性である　② 汝自身を知れ
③ 徳は知である　④ 無知を自覚せよ

問２　下線部(a)に関して，このような知の対象の名称として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。［32］

①　ソフィア　　②　アガペー　　③　カロカガティア　　④　パラドクス

問３　下線部(b)に関して，根本的な知を意味するギリシア語として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［33］

①　イデア　　②　ドクサ　　③　エピステーメー　　④　フィリア

問４　下線部(c)に関して，主知主義についての次の説明文中の空欄［34］に入る語として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。

人間の心は知・情・意からなるなどといわれるが、このうち知の面を、つまり知性とか理性とか悟性とかよばれる知の機能を、ほかの感情や［　34　］の機能よりも上位に据える見方が一般に主知主義とよばれ、感情を上位に置く情緒主義や、［　34　］を上位に置く主意主義に対するものとして用いられる。

①　欲望　　②　意欲　　③　意志　　④　直観

問５　下線部(d)に関して，次の『ソクラテスの弁明』からの引用文中の空欄［A］［B］に入る語の組合せとして最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。［35］

もし万一，諸君がこのような条件で私を無罪放免にしてやると申し出られるなら，私は次のように答えるでしょう。「アテナイ人諸君よ，わたしはあなたがたに大きな情愛と敬意を抱いています。でもわたしはあなた方よりは［A］にしたがうでしょう。そしてわたしに息のある限り，［B］を求めることをやめないでしょう。」

①　［A］神　［B］知恵　　②　［A］神　［B］正義
③　［A］法　［B］知恵　　④　［A］法　［B］正義

問６　次の文を読み，ソクラテス問題とは何かを説明する文としてとして最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。［36］

ソクラテス自身の営為とそれを書き著した資料との間には、「ソクラテス問題」と呼ばれる困難が横たわっている。プラトンやクセノポンらの書き物から窺われる「ソクラテス」は、それぞれ相異なった姿を示しており、それが実際のソクラテスの行状とどう重なり、どうずれているのか、が研究者を悩ませてきたのである。

①　ソクラテスという人物が実際に存在したことをどのように証明するかという問題
②　ソクラテスの著作とプラトンたちの著作の間にある矛盾点をどう考えるかという問題
③　ソクラテスの思想が他の誰の思想の影響のもとで形成されたのかという問題
④　ソクラテスの思想をプラトンたちの著作からどのように復元できるのかという問題

第５問　次の文章を読み，下の問い（**問１～問６**）に答えよ。（配点　28）

ソクラテスの弟子プラトンは，師の思想を引きつぎつつ，その理想主義的な傾向をさらに徹底して考えた。彼は，たえず移り変わるこの現実の世界を［　37　］して，永遠に変わることのない理想の世界，すなわちイデアの世界が実在すると考えた。そしてさまざまな説き方で，人々の目をこのイデアへと向けようとしたのである。

例えば，わたしたちは一度として肉眼で完全な三角形というものをみたことがないであろう。どんなに定規できちんとえがかれたものであっても，必ずどこか不完全である。にもかかわらず，わたしたちは完全な三角形というものを知っている。知っているから，目の前の三角形をみてそれが不完全だということもわかるのである。それどころか，ある形が三角形だと判断できるのも，この完全な三角形を知っているからなのである。それでは，この完全な三角形（三角形のイデア）をわたしたちは何によって知るのであろうか。それは肉眼によってではないから，心の目，つまり［　38　］によってである。

同じように，肉眼でとらえられたかぎりでは，A という人も B という人もまったく異なる姿をしている。にもかかわらず，わたしたちは両者をともに「人」という共通の名でよぶ。それは，わたしたちが，あらかじめ理性によって「人そのもの」というもの，つまり人のイデアをみ，A も B もこのイデアに似ている，いいかえれば，A も B もこのイデアを［　39　］していると判断するからなのである。

ところで肉眼でとらえられた，すなわち感覚でとらえられた個々の事物（例えば，個々の人，個々の家）はすべて［　40　］するのに対し，イデア（人のイデア，家のイデア）は常に同じ姿を保ち，永遠不変である。それゆえ，イデアこそ真の実在（真実在）であり，現実の個々の事物はその不完全な模像，単なる影にすぎない。ところが，多くの人は感覚にとらわれ，イデアの影を実在だと思いこんでいる。プラトンは『［　41　］』の中で，それはちょうど，洞窟の中で壁に向かって座らされ，後ろをふりむくことのできない［　42　］が，壁に映っている影――背後の事物の影を実在だと思いこむようなものである，と説明している。

人間の魂は，かつてはイデアの世界に住んでいたが，いまでは［　43　］という墓場にとらわれ，感覚でとらえられる個々の事物を実在と錯覚し，イデアを忘れ去っている。なるほど個々の事物もイデアの模像であるかぎり，それを手がかりとしてイデアを［　44　］することはまったく不可能なわけではない。しかしそれができるのはごくわずかな人だけである。だがここに一つ，模像から原像であるイデアへの［　44　］が容易なものがある。それが美である。それゆえ，人間の魂は，美しいものを経験することによって，かつて住んでいた魂の故郷（イデア界）を［　44　］し，それにあこがれるのである。このイデアへの魂のあこがれが［　45　］である。

問１　文章中の空欄［　37　］～［　44　］に入れる最も適当なものを，次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

［37］
① 超越　② 遍在
③ 拡大　④ 内在

［38］
① 直観　② 理性
③ 感性　④ 悟性

［39］
① 所有　② 分有
③ 類比　④ 召還

［40］
① 変化生滅　② 集合離散
③ 延長拡大　④ 現実存在

［41］
① パイドン　② 自然学
③ クリトン　④ 国家

［42］
① 道化師　② 死人
③ 人形　④ 囚人

［43］
① 大地　② 洞窟
③ 肉体　④ 監獄

［44］
① ミメーシス　② アポカリプシス
③ アナムネーシス　④ プラクシス

［45］
① エロス　② フィリア
③ ポイエーシス　④ アガペー

問２　イデアについての説明として**適当でないもの**を，下の①～④のうちから一つ選べ。［46］

① 動詞 idein(見る)に対応して「姿」「形」を意味するギリシア語
② 純粋の思考によってのみとらえうる存在
③ 想像や空想が作り出した仮想的対象
④ 確実な知をもたらす，知の目ざすべき真実在

問３　次の『饗宴』の中の文の趣旨から，エロスと似ている対象として最も適当なものを下の①～④のうちから一つ選べ。［47］

さて，エロスはポロス（豊かな神）とペニヤ（貧しい女神）の間の息子として次のような境遇に立っています。すなわちまず第一には，彼はいつも貧乏です，そうして多衆が信じているような，きゃしゃとか優美とか言うのとは大違いで，むしろごつごつしていて，汚らわしく，裸足で，また家なしなのです。それは彼が母親の生を受けているので，いつも貧乏と同居しているからです。ところが，他の一方ではまた父親にも似て，いつも美しいものと善いものとを待伏しており，勇敢で剛強で，非凡な狩人であり，常に何かの奸策をめぐらし，しかも術策に窮することないのです。

① 天使　② 英雄　③ ソフィスト　④ 哲学者

問４　『国家』に描かれる，魂の「欲望」に該当する市民の階級として，最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［48］

① 生産者階級　② 統治者階級　③ 奴隷階級　④ 防衛者階級

問５　プラトンは魂の三部分の関係にもとづいて国家のあり方を説明した。彼の国家についての思想として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［49］【2005 年センター本試験より】

① 一人の王の統治は，知恵を愛する王による統治であっても，つねに独裁制に陥る危険を孕んでいる。それゆえ防衛者階級も生産者階級も知恵･勇気･節制を身につけ，民主的に政治を行う共和制において正義が実現する。

② 統治者階級は，知恵を身につけ，防衛者階級を支配し，防衛者階級は勇気を身につけ，生産者階級を支配する。さらに生産者階級が防衛者階級にしたがい節制を身につけたとき，国家の三部分に調和が生まれ，正義が実現する。

③ 知恵を身につけた統治者階級が，防衛者階級に対しては臆病と無謀を避ける勇気を身につけるよう習慣づけ，生産者階級に対しては放縦と鈍感を避け節制を身につけるよう主幹づける。このようなときに正義が実現する。

④ 知恵を愛するものが王になることも，王が知恵を愛するようになることも，いずれも現実的には難しい．知恵を愛するものが，勇気を身につけた防衛者階級と節制を身につけた生産者階級とを統治するとき，正義が実現する。

問６　プラトンの著作名として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。［50］

① 形而上学　② パイドン　③ 饗宴　④ クリトン

これで問題は終わりです。